

消防からのお知らせ

停電が長時間継続し、 消防用設備等が作動しない場合

■消火設備■

- ・ 消火器、簡易消火用具等の設置場所及び使用方法を再確認しましょう。

■警報設備■

- ・ 建物内の巡回等を行い、こんろその他の火気使用設備
- ・ 器具の火元の警戒を入念に行う等、火災の早期発見を図りましょう。

■避難設備■

- ・ 建物関係者等による避難誘導体制及び避難経路を再確認しましょう。

～自家発電設備の機能の確保～

- ・ 消防用設備等の非常電源として自家発電設備を用いている場合、必要の燃料の確保等に努めるとともに、常用電源復旧後、直ちに運転を停止し、燃料の補給等により、火災時の機能に支障のないよう措置をしましょう。

地震後の火災防止について

地震発生後には、過去の事例から、停電後の再通電や裸火の使用などにより、火災発生の危険性が高まります。

■通電火災■

- ・ 停電中の自宅を離れる際には、ブレーカーを落としてください。
- ・ 給電が再開されたら、電気機器が破損していないか、配線やコードが損傷していないか、燃えやすいものが近くになかなど、十分に安全を確認してからブレーカーを戻してください。
- ・ タイマー機能により、通電再開直後ではなく時間が経過してから電気機器が作動する場合があります。また、普段設定している時刻とは異なる時刻に作動し始める場合があります。
- ・ 建物や電気機器に外見上の損傷がなくとも、壁内配線の損傷や電気機器内部の故障により、長時間経過した後、火災に至る場合があります。

■裸 火■

- ・明かり取りの目的で、ろうそく等の裸火はできるだけ使用しないでください。地震で物が散乱し、平常時には無い場所に燃えやすいものがあるなど、屋内はいつにも増して裸火から着火しやすい状況にあります。また、近くに燃えやすいものがなくても余震により可燃物が裸火の近くに移動してくる場合があります。
- ・避難や復旧活動の疲れから、ろうそく等への注意が十分に行き届かない場合があります。
- ・万が一着火した場合には、避難や消火が通常の火災より困難になります。

■カセットコンロ■

- ・大きな鍋を使い鍋底がカセットボンベの上を覆ってしまうと、カセットボンベが過熱して爆発するおそれがあります。
- ・カセットボンベの装着不良によるガス漏れ、衣服や髪への着火の危険があります。

■ヒーター■

- ・ 投げ込み型湯沸かしヒーター等を、風呂の湯沸かしに使うことなど、本来の目的でない熱源機器の使い方をすると、過熱防止等の安全装置や本来の安全性能が機能しない場合があります。火災発生のおそれがあります。

■煙突の破損■

- ・ 地震の影響で煙突が破損、外れが生じた状態で風呂釜、ボイラーなどを使用すると、火災発生のおそれがあります。使用前に煙突に異常がないか確認するとともに、使用中、使用後も十分気をつけてください。

■太陽光パネル■

- ・ 地震で損傷した太陽光パネルも日が当たると発電し、火災や感電に繋がる可能性があります。素手で触らず、販売施工業者への連絡、絶縁性の高い手袋等による感電防止、可能であればパネル表面の遮光（ブルーシートや段ボールで覆う、裏返しにする）等の対策をとってください。

■その他の一般事項■

■ 1 1 9 番通報体制の確保 ■

- ・ I P 電話や F A X 機能付き電話等の一部電話機では、停電により使用不能となっているものがあるので、予め確認し確実な 119 番通報体制を確保しましょう。

■避難経路等の確保■

- ・ 停電により、電気錠が設けられた扉、自動ドア等が機能を失って通行不能となっているおそれがあることから、避難経路又は消防隊進入経路を確認し、通行ができる対策をしましょう。

■ホームタンクの点検■

- ・ 地震の影響により灯油ホームタンクの転倒や配管などに亀裂が入り灯油が漏れるおそれがあることから、今一度灯油ホームタンクの点検をしましょう。

